

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

1 一括質問一括答弁方式

② 一問一答方式

質問件名 女性や若者を守るための市の相談体制をさらに有効なものにするために

質問要旨 出口の見えないコロナ禍で、とくに女性や若者の自殺の増加傾向が続いている。

厚生労働省の「令和4年版自殺対策白書」によれば、2020年はそれまで減り続けていた自殺者数が11年ぶりに増加に転じ、2021年には総数では微減したものの、男性が12年連続で減少している一方で、女性は2年連続の顕著な増加となっている。年代別ではコロナ禍以前から増加傾向が続いていた10代に加え、20代が2年連続で大きく上昇し、特に2020年は女性の20～40代の自殺死亡率の上昇が大きく、2021年も高い水準でとどまっている、と報告されている。また、文部科学省が今年10月に公表した「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」によれば、2021年度に病気や経済的理由などとは異なる要因で30日以上登校せず「不登校」と判断された小中学生は24万4940人、小中高と特別支援学校のいじめの認知件数は61万5351件で、ともに過去最多だった。とくに不登校と判断された児童生徒数は9年連続で増えており、児童・生徒への心のケアを中心とした早期の対策が必要と叫ばれて久しい。市では多くの相談や支援を行っているが、様々な困難を抱える方々に情報が届き活用しやすく、ケースによっては地域での適切な支援につながる事が出来ているかという視点に立ち、以下質問する。

1 女性相談室について

- (1) 相談件数の過去5年間の推移をお示ください。
- (2) 相談者の過去5年間の年代別の傾向をお示ください。
- (3) 女性相談の相談員はどのような専門や資格をお持ちの方が就かれているのでしょうか。
- (4) 相談員の傾聴スキル向上や案内する情報の更新など専門知識の蓄積のための研修はどの程度行われていますか。
- (5) 相談員が専門機関に繋ぐ場合はどのような流れで行われますか。
- (6) 市として相談者を専門機関に繋いだ場合のその後の状況確認は行っていますか。
- (7) 「女性相談室」の市民への広報・周知方法は。
- (8) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」の2024年の施行に向けた国の動きを鑑み、現状の女性相談室についての課題の把握と、今後どんな風に体制強化していきたいと思っているか、見解は。

2 こだいらにじいる電話相談について

- (1) 今年度の月ごとの相談件数の推移をお示ください
- (2) 相談者の年代の特徴は。
- (3) 2023年1月から始まる「こだにじROOM」の企画内容について、想定対象者の年代や会の実施期間・進行方法など詳細をお示ください。

3 ティーンズ相談室について

- (1) 過去5年間の年間相談件数の推移をお示ください。
- (2) 今年度の月ごとの相談件数の推移をお示ください。
- (3) 今年度の電話での相談件数とメールでの相談件数をそれぞれお示ください
- (4) ティーンズ相談室の相談員はどのような専門や資格をお持ちの方が就かれているのでしょうか。
- (5) 相談員が専門機関に繋ぐ場合はどのような流れで行われますか。
- (6) 市として相談者を専門機関に繋いだ場合のその後の状況確認は行っていますか。
- (7) 地域で繋がる事が出来る、顔の見える場所としての相談室として、今後より有効に活用できる場所とするためにどのような取組をしていく必要があると考えるか、見解をお示ください。
- (8) 「ティーンズ相談室」の市民への広報・周知方法は。
- (9) 携帯電話などの通信環境を持たない子どもや学生に相談支援の情報を届きやすくするために、学校で全校生徒に配付されているタブレットでもアクセスしやすい市のキッズ版HP「ぶるべーのさんぼみち」のトップ画面に、困ったときの相談窓口の情報を載せる等の工夫が必要と考えますが、見解は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和4年11月16日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 山浦 まゆみ

受付番号【 】

25	24	23	22

-(/)